

会計士が足りない

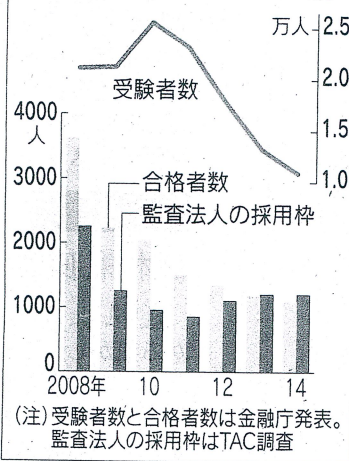
公認会計士が足りなくなっている。上場企業の決算をチェックする会計士の作業は会計ルールが複雑になって増えている



公認会計士の受験者は10年比6割減の1万人に減少している（TAC渋谷校の公認会計士講座）

合格者減で監査法人の採用苦戦 中小ではゼロも

会計士試験の合格者は年々減少



のに、会計士試験の合格者も出ている。者には減少。監査法人の採用率を下回る状況が続いている。若手会計士を確保しようとする監査法人同士の競争が激しくなる一方、中小の監査法人では採用を断念するケースも出ています。昨年、会計士試験に合格した男性(31)のもとには、複数の監査法人の採用担当者から直筆で手紙が届いた。都内の大学4年生の女性にも、合格直後から先輩会計士から

の勧誘が相次いだ。「就職先を探すとこのより、こちらが選べる状況だった」という。

会計士の就職戦線はこの2年で様変わりした。国家資格である会計士は試験に合格しなければ仕

事ができない。ところが2014年の合格者数は1102人と、比較できる06年以降で最も少なかった。金融危機後に監査法人が採用を絞り、会計士離れが進んだためだ。受験予備校を運営するT

ACによると、昨年の合格者数は各法人の採用予定数の合計を下回った。新日本、トーマツ、あ

ずさの三大法人の昨年の採用者数は、いずれも前の年を下回った。合格者数の減少で採用計画その

ものを縮小したが、計画に届かなかった法人もあった。それでも大手3法人はそれぞれ300人程度を確保したもようだが、苦しいのは中堅中小だ。「今回はゼロだ」。ある中堅法人は11月の合格

発表直後から前倒しで採用説明会を開いたが、人材を確保できなかった。人員不足を補うため、新日本監査法人は1月、会計士の業務を補佐するスタッフを約80人臨時で採用した。他の監査法人

も別の監査法人に勤める会計士を中途で採用したり、論文式など最終試験に合格できなかった人を職員として採用し、合格後に会計士の業務に就いてもらう道を用意したりと知恵を絞っている。

も別の監査法人に勤める会計士を中途で採用したり、論文式など最終試験に合格できなかった人を職員として採用し、合格後に会計士の業務に就いてもらう道を用意したりと知恵を絞っている。